

かわさきケアデザインコンソーシアム



For the future of care design

ケアさき

ケア現場

- ・職場環境を改善したい。
- ・患者さんへ寄り添いたい。



会員

- ・ヘルスケア事業に参入したい。
- ・社会貢献したい。



かわさきのケア現場を活用して
イノベーションを創造する

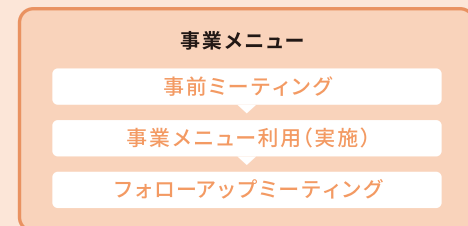
アイデアは、現場にある

現場のニーズと企業のシーズをマッチングさせ、いち早くアイデアをカタチに。ケア現場との連携を特徴としたフィールドを形成し、産学官共創による、ケア現場を支援する製品・サービスの創出・改善を目指します。

『かわさきケアデザインコンソーシアム』について

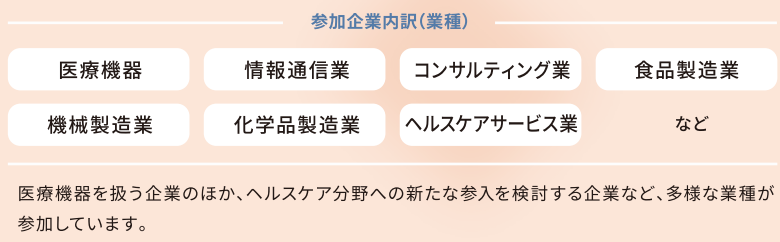
「かわさきケアデザインコンソーシアム」(通称：ケアさき)は、文部科学省のCOI-NEXTプログラム川崎拠点の活動から発足した、医工看連携によるイノベーションを目指す共同体です。高齢化や医療従事者不足等の社会課題解決に向け、川崎市のウェルフェアイノベーション政策や川崎市看護協会との連携を活かし、ケア現場のニーズを製品・サービスとして社会実装することを目的とします。業種を問わずヘルスケア産業への参入を目指す企業に、現場ニーズとのマッチングや実証研究の機会を提供します。

事業メニュー ご利用の流れ

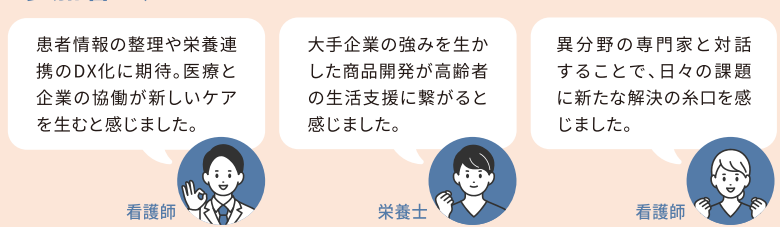


事業メニューをご利用になる場合、まず事務局・川崎市看護協会とのミーティングをお願いします。事業メニューの利用目的や希望対象など詳細を共有、ご希望の内容に沿った協力先(医療機関・医療関係者)をご提案いたします。また実施後にはフォローアップミーティングを行っています。

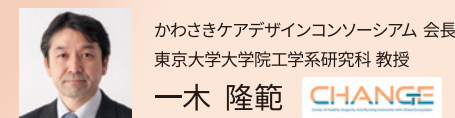
会員企業



参加者の声



ご挨拶



「かわさきケアデザインコンソーシアム」は、医療・看護・工学・産業・行政が垣根を越えて連携し、現場の課題に寄り添いながら新たなケアの価値を共に創り出す共創の拠点です。企業の皆様には、自社の技術や発想を生かし、社会課題の解決と新事業の創出に挑戦する場を提供します。多様な専門家と協働し、現場での実証研究や製品開発を通じて、川崎発のケアイノベーションを世界へ発信し、未来のケア産業を共に育てていきましょう。

アドバイザー



公益財団法人川崎市産業振興財団 副理事長
ナノ医療イノベーションセンター センター長

片岡 一則



川崎市看護協会は、地域の病院や訪問看護ステーションと密接なネットワークを築いています。本コンソーシアムでは、企業の皆様が看護現場の声を生かし、真のケアニーズに応える製品開発を進められるよう、現場との橋渡しを担います。未来のケアを変えるこの取り組みは、看護師に大きな希望と力を与えるものです。ぜひ私たちと共に、新たなケアイノベーションを創出していきましょう。



東京科学大学総合研究院難治疾患研究所
先端ナノ医工学分野 教授 医師

内田 智士

会員向け事業メニュー

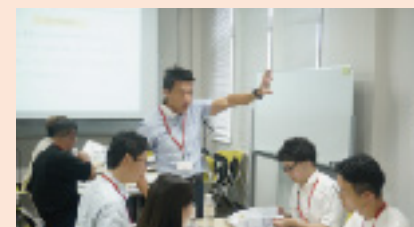
研修内容	企業会員	准会員
1. セミナー等学びの場の提供(看護師や有識者による講演等)	○	※
2. ケアニーズに関する情報共有・ワークショップ参加	○	※
3. 医療従事者へのヒアリング	※	
4. 看護現場観察(1時間程度)	※	
5. シャドーイング研修	※	
6. ケア現場における実証研究の場の提供	※	
7. 協業マッチング(会員交流会など)	※	※

○:無料 ※:原則有料



看護師を交えたワークショップ

現役で働く看護師が参加し、現場における困りごとや改善点をテーマに、ワークショップを開催しています。現場では具体的にどのような課題があるのか、どの様に変えていきたいと思っているのかなど、ディスカッションを通して課題解決に向けた自由で多様なアイデアを生み出すきっかけを提供します。



東京大学バイオデザインとの特別プログラム

ビジネスにイノベーションをもたらす手法である「デザイン思考」を用いて、医療現場観察に基づく潜在的なニーズの探索からコンセプト創造、事業化までステップをプロセス化し、世の中に本当に必要とされている医療機器の開発手法の習得を目指すプログラム。ケアさきでは、このプログラムを体験できる機会を設けています。



医療従事者へのヒアリング

看護師などの医療関係者へのヒアリングが可能です。病院、クリニック、訪問看護など、目的に応じてヒアリング先を選択できます。開発段階から現場の声を取り入れることで、ミスマッチの防止につながるほか、開発側では気づきにくい現場ならではの視点を共有する機会にもなります。



看護現場観察

実際に看護師が医療機器や製品をどのように使用しているのかを、現場で観察(1時間程度)することができます。開発側が使用現場を直接観察することで、看護師自身も気づいていない無意識の工夫や不便さや、誤操作や事故につながる可能性など潜在的リスクの発見にもつながる機会を提供します。



シャドーイング研修

ケア現場で看護師の業務を直接観察する「シャドーイング研修」(1～3日間)の利用が可能です。看護師の業務を後ろについて観察することで、看護師が無意識に行っている業務や作業などに着目でき、ヒアリングから聞き取ることの難しい新たな気づきをビジネスに繋げることが期待できます。研修先は病院や訪問看護ステーションなど、ご希望に合わせて選択することが可能です。



通称「ケアさき」は、川崎市内の高校生が「ケアの先端技術への挑戦」「患者さんへのケアの先回りができるような思いやり」、そして「ケアの先にある安心できる環境の大切さ」など、いくつもの思いを込めて考案してくれました。(※)

※「ケアさき」及びそのロゴマークは、かわさきケアデザインコンソーシアムの登録商標です。

団体概要

名称	かわさきケアデザインコンソーシアム
会長	一木隆範(東京大学大学院工学系研究科 教授)
運営	一般財団法人 総合研究奨励会
設立	令和6年11月1日
所在	〒113-8656 東京都文京区弥生2丁目11番16号 東京大学工学部9号館 1階

会員構成

種別	企業会員	准会員
	本コンソーシアムの目的に賛同し、活動の推進に参画する企業及び団体(業種は問わない)	本コンソーシアムの目的に賛同し、情報提供を受け企業会員又は協会員への登録を検討する企業、団体及び個人
年会費	36万円(社員数:101名以上) 12万円(社員数:100名以下)	無料
会員特典	すべての事業メニューが利用可能	臨床現場へのアクセスを伴わない事メニューに参加可能(有料)
幹事会	会長の指名に基づき 幹事への就任が可能	—
議決権	あり	なし

お問い合わせ先

かわさきケアデザインコンソーシアム

お問い合わせ: プロジェクトCHANGE研究推進機構事務局

神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-14 ナノ医療イノベーションセンター内

TEL.: 044-589-5785 E-mail: kawacare-consortium@kawasaki-net.ne.jp

<https://change.kawasaki-net.ne.jp/consortium/>

